

## [学会記録]

## 北海道医療大学歯学会第34回学術大会 定例講演会

歯と口腔の時代の到来！！  
—口腔のケアそして人間復活へ—

米山歯科クリニック  
米山武義

私事で恐縮ですが、縁があって以前NHKラジオ深夜便「心の時代」に声の出演をさせていただきました。「口は長寿（長生き）の門」というテーマでしたが在宅診療にかかわって、要介護者とその家族が必死で生きている姿を歯科医師の目線で伝えました。つたない話でしたが、これまで経験してきたことをできるだけ患者さんの立場に立って話しました。しかし放送後、すごい反響を頂きました。内容は次のようなものです。「脳血管障害をわずらい、口から食べられない夫に何とか一口でも食べられるようにさせてあげたい。」「肺炎で生死をさまよったことがあります。どうか効果的な口腔ケアを教えてください。」「主人の涎が止まりません。どこか相談にのっていただける医療機関はないでしょうか。」など等。口腔のことで多くの国民が深刻な悩みを抱えていることを知り、襟を正して、国民の健康と福祉に邁進すべきであることを教えられた次第です。

看護教育の指導者であるヴァージニア・ヘンダーソン

（Virginia Henderson）が、1960年、著書『看護の基本となるもの』のなかで「歯を磨くこともごく簡単なことであると多くの人は思っているが、意識を失っている人の口腔を清潔に保つのは非常にむずかしくまた危険な仕事であり、よほど熟練した看護婦でないと有効にしかも安全に実施できない。実際、患者の口腔内の状態は看護ケアの質を最もよく表すもののひとつである」と記し、口腔という敏感で人間の尊厳に深くかかわる器官のケアの難しさと重要性を述べています。

近年、口腔保健管理（口腔ケア）は、歯科疾患の予防を目的としたものから、口腔のもつあらゆるはたらき（摂食、咀嚼、嚥下、構音など）を健全に維持し、全身健康に寄与するものとして理解され、実践されています。本講演では地域包括ケアの時代を迎えて、多職種と連携する歯科衛生士と歯科医師に求められていることは何かについて、これまでの経験をもとに北海道医療大学の皆様とじっくりお話したいと思います。